ルクミー
スマート 保育園 幼稚園 こども園 通信
11 月号
2022NOV

Contents 目次

特集1:キッズ・キッズ折尾保育園インタビュー～「研修を経て、日誌や週・月の振り返りでも写真を使った共有ができるように」～
特集2:みらいへの一歩セミナー開催レポート
コラム：【園児メモリー】自動グラフ化された身体測定結果を保護者に共有してみませんか？
社員インタビュー：プロダクトマネジメント部　ICT導入推進課　小谷田 洋一

特集1：キッズ・キッズ折尾保育園インタビュー ～「研修を経て、日誌や週・月の振り返りでも写真を使った共有ができるように」～

保育施設向けの実践型オンライン研修「ルクミー みらい保育スクール」では、園・施設の課題解決や保育の質向上を目指す先生方を、さまざまな研修プログラムでサポートしています。

グループワークで新たな視点を。即実践して子どもに変化が！

――今回「ドキュメンテーション活用」コースに参加いただいた目的を教えてください。

当園で日誌としてルクミーのドキュメンテーションを利用することになったため、日誌としての書き方を知るために参加をしました。

――参加されてみて感想はいかがでしたか？

これまでドキュメンテーションを本などで見たことはあったのですが「大変そうだな」と壁を感じていました。しかし、研修で行ったように日々の写真を積み重ねて一枚にまとめていくと知って「思ったよりは作りやすかったんだ！」というイメージに変りました。
また私が撮影した一枚の水遊びの写真（プールの中で遊んでいる子どもと、その周りで遊んでいる子ども達）を見て、グループワークで話し合った回がありました。

私はプールの外の子どもは「水が苦手なのかな？」「興味がないのかな？」と捉えていたのですが、同じグループの他園の先生から、「もしかしたら他の子どもに圧倒されているのかもしれないね。私だったら遊んでいる人数を半分にしたり、環境構成を変えるかな」といった意見をいただきました。

自分にはその考えはなかったので、その先生に言われたことを帰ってから実践してみました。そうしたら、今までプールの外で遊んでいた子どももプールに入って遊ぶようになったんです！

保育の中で「私の目線」だけで見ていたところがあったのですが、グループワークがあることで、他の先生達の意見も聞いて、自分に持っていない考えかたや視点を得られました。これは大きな収穫でしたね。

グループワークで話し合った水遊びの写真

「気になる子」から始まって、子どもとの「気になる子」から始まって、子どもとの向き合い方が変わった

――全4回の研修の中で――全4回の研修の中で先生が感じた変化を教えてください。

まずテーマを決めていく過程から子どもへの見方への変化がありました。

最初は「気になる子」がクラスに何人かいたので、「その子達一人ひとりの好きなことを見つけていく」というのを目標にしました。

しかし、最終的には「一人ひとりと向き合って遊び込む姿を深めていきたい」というところに変わっていきました。

研修の期間中に、その「気になる子」を中心にクラスの子ども達が遊びを満喫している姿を見て、クラスでの広がりに気づけ、遊びも長期的な目線で計画を練るようにしたのです。
研修の最終報告でもお伝えしたように、連絡帳を記入する際に、添付する子どもの写真を「これ見て」と先生同士で会話をするようになったり、「子ども達との向き合い方が変わった」と感じています！

© Unifa inc.

――現在はドキュメンテーションを日誌としてどのように活用されていますか？

1つはクラス日誌として、もう一つは個別日誌として残しています。
1日2コマで、全体の写真を1コマ、1人をピックアップしてもう1コマというように使っています。1クラス8人なので、大体1週間に1回程度は1人にじっくりと目を向けられるようになります。

これまでは偏った子だけが記録も印象も残りがちだったのですが、満遍なく目を配れるようになったかなと思います。
蓄積した1か月分のヒトコマのなかから、担任が他のクラスや非常勤の先生に見てほしいものをピックアップして、主任の先生がストーリーにまとめ、職員用のチャットツールにストーリーにして流して共有しています。

同じ園のなかでも、ちょっとした生活、発達を他のクラスの子のことは知らなかったりするので、「こんなことができるようになったんだ」と知れて雑談の中で話したり、違う視点で見てもらえたりするのは良いですね。

――ヒトコマのタグ機能はどのように使われていますか？

園児名をタグ付けとして使っています。最近のことは覚えていても少し前のことは忘れてしまうので、保護者面談の前に子どもの名前毎にタグ付けされた写真を見返して、「4月はこんな感じだったな」「6月にはこんなことができるようになったな」と思い出しつつ、お伝えしています。

遊びの名前もタグ付けしていたら、ストーリーとしてまとめるときに便利かもしれませんね。

ルクミードキュメンテーションで作成したクラス日誌

――実際に、保育の質に繋がってるなあと実感することはありますか？

1歳児クラスが3年目なのですが、日々の計画を立てる際に、以前は「毎年この時期はこれをするよね」と、これまでと同じ流れで考えがちだったのですが、ドキュメンテーション研修に参加して子どもと向き合う中で、写真を見て子どもたちの姿を振り返りながら、これに興味を持っているからこの遊びをしよう、靴をはくのを頑張っているから散歩のときに待ってみようなど、今の子どもの姿に合わせて保育をするようになりました。

また、これまでは保育の振り返りについて、その日の日誌を開かないと確認できませんでしたが、画面にヒトコマがずらっと並ぶので、今週はこんなことしたなとひと目で振り返りやすくなるなと感じています。

――研修修了後、ドキュメンテーションを作成してみて保護者の方や子ども達の反応はいかがでしたか？

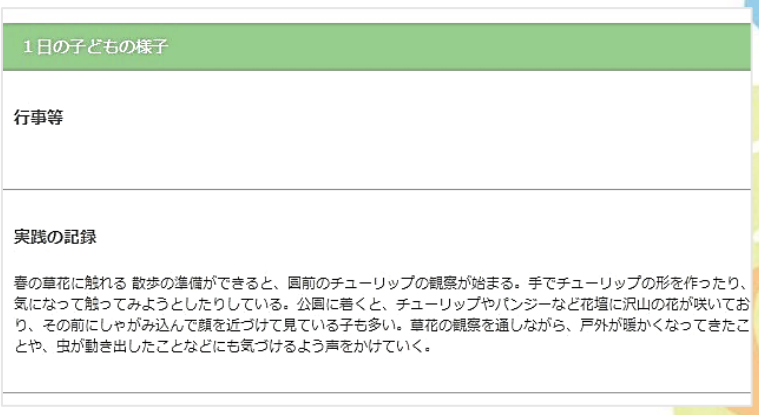
月に1回見て欲しいと思う活動のシーンをコラージュのようにして、写真と文章にしています。そして、それを壁面の下に、子どもの目線に貼り出すように、他の先生とも試行錯誤しながらやりだしたところです。

ルクミー連絡帳で毎日届けているのはその子が単独で写っている写真3枚ですが、月1のドキュメンテーションではクラス8人全員の様子が伝わります。

また、コロナ禍で保護者対応も玄関でだけなのですが、保護者の方達となんとかコミュニケーションの場が作れたら良いなと思って、玄関の子どもの目線に掲示しています。

実際に写真を見ながら子どもが「これは○○ちゃん、こっちは○○くん」と話したり、それを見て保護者の方は「クラスの子の名前を覚えたんだね」と答えたり、和やかな送迎の時間が生まれたように感じます。

保護者の方も楽しみにしてくださっているようなので、これからも他の先生方と協力して続けていきたいです。



以前のクラス日誌

参加者の多くが保育の変化を実感！研修終了後のアンケート結果を公開

2022年9月に終了した4期目の往還型「ドキュメンテーション活用」コースでも、参加された先生の多くが保育の変化を実感されていました。
研修終了後、「写真を使った振り返りから計画に活かしている」方は、**95.7%**に上りました。
（※研修参加前から行っていた10.6%を含む）

また、実施前からの気持ちの変化については、回答者の**100.0%**が「子ども理解の視点が深まったか」に「はい」と回答。「保育の内容がより豊かになったか」には**89.4%**が「はい」と回答する結果となりました。

ルクミーはこれからも、園・施設の課題解決や保育の質向上に向けて伴走していきます。

© Unifa inc.

特集2：みらいへの一歩セミナー開催レポート

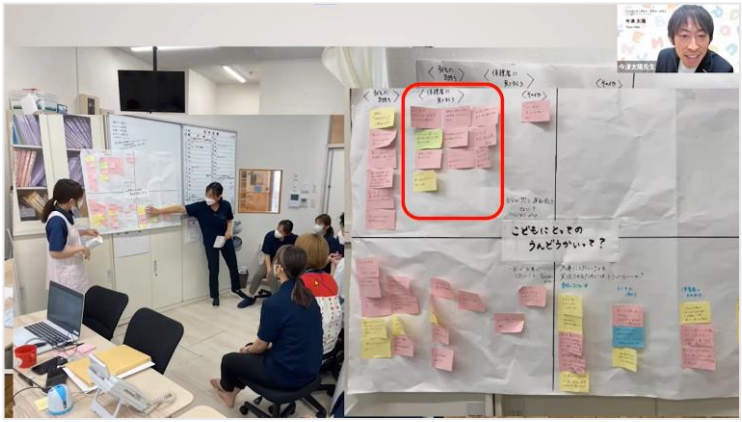
「変化を楽しもう！」～太陽先生の“令和式”行事革命～レポート

2022年10月20日に開催された「みらいへの一歩セミナー」では「『変化を楽しもう！』～太陽先生の“令和式”行事革命～」と題し、今津太陽先生（社会福祉法人泉新会　理事長・保育士）に登壇いただきました。

まず本題の「行事」の話題に入る前に、「そもそもどうして子ども主体の保育なのか？」を問う必要があると参加者に投げかけ、「国として子ども主体の保育を推進していること」「主体性、共同性、対話、探求の時代にあること」を伝えました。

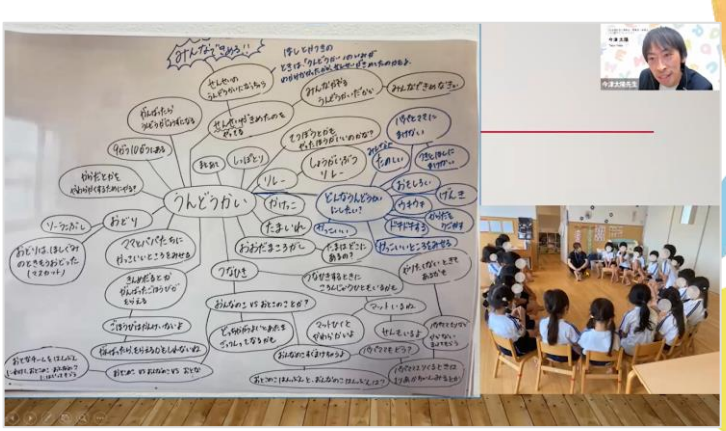
ここで子ども主体の保育への転換のネックになるのが「行事中心の保育」であり、行事に対しては“子どもにとって”という視点」をもつことが大切だと太陽先生は指摘します。

この日は太陽先生が実践した5歳児クラスの「子どもの日」「七夕」「運動会」の行事展開事例を、作成したドキュメンテーションと共に紹介いただきました。
運動会の際はまず先生同士で「子どもにとっての運動会って？」と考えることから始めました。



また子ども達にも「運動会ってどんなもの？」と問い、マインドマップで発想を膨らませていきました。すると「みんなの運動会だからみんなで決めたい」といった声も出てきました。

「どんなことがやりたいか？」に対しても、挙がってきた全種目を試し、子ども達なりにルールを決めたり種目を決めたりしていきました。
こういった取り組みは5歳児クラスと関わりのあった他のクラスへも広がっていきました。

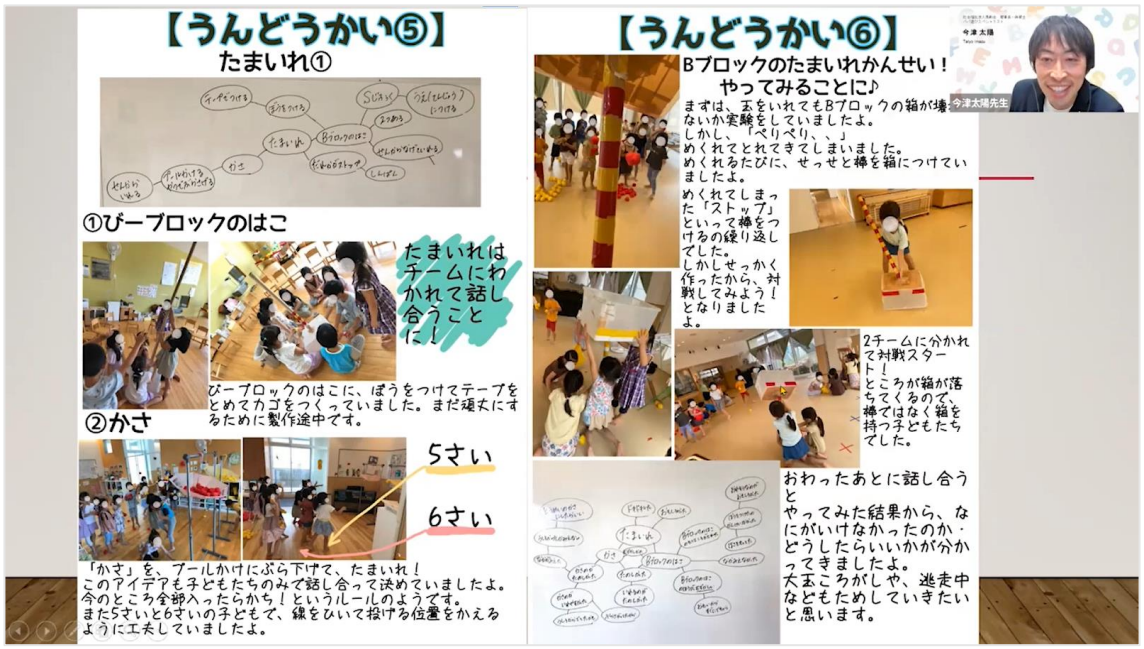


行事開催にあたって、園長としては「保育者主体」も意識して見守り、「園長だより」や動画で子ども主体の保育・行事の必要性などを保護者に対して発信を行いました。

ドキュメンテーションのひな形は定めなかったことで、若い先生がアプリを使いながらどのような見せ方にしようかと考えていたのが印象的だったと語ります。

ここで表れた変化は、保育者の言葉が「頑張ったね」から「楽しかったね」となったこと、また子ども達の話し合う力が身についたと感じたと言います。

セミナーの最後には太陽先生から「自分たちの中で既存のルールに疑問があれば、職員全体を巻き込みながら行動を起こす、そんな一歩をぜひ踏み出してみてください」と参加者にエールを送りました。



© Unifa inc.

もっと便利に！ルクミー活用術

【園児メモリー】自動グラフ化された身体測定結果を保護者に共有してみませんか？

ルクミー基本サービス「園児メモリー」の便利機能をご紹介します。園側でルクミーに園児の身長、体重をご入力いただくだけで、カウプ指数計算・グラフが自動で作成されます。また保護者に共有する設定を有効にすると、保護者アプリでも身体測定結果に加え、成長グラフが表示されるようになりました。手書き業務の削減に、是非ご活用ください。
※保護者へのご案内については<u>こちら</u>をご参照ください。

保護者アプリ

①右下「メニュー」
②「子ども」
③お子さまを選択
④「成長記録」
⑤「グラフ」の順にクリックするとグラフが表示されます。

園の操作

ルクミー管理画面から「園児メモリー」を選択します。
①「身体測定/健診一括入力」
②「身体測定」
③「該当クラス・月」「身長、体重の入力」
④保護者への公開にチェックを入れる
⑤「内容を保存する」押下で保護者へ公開されます。

※クラスごと、月ごとに設定が必要です。詳細は<u>マニュアル</u>をご確認ください。

ルクミーの中の人　プロダクトマネジメント部　ICT導入推進課　小谷田 洋一

■ どんな仕事をしていますか？

クラスボード・連絡帳・おたより、保育者用ルクミーノートアプリのプロダクトマネージャーをしています。サービスがどうあるべきか、どのような機能を追加するとより多くの先生に便利を感じていただけるか、今ある機能をどうすればもっと使いやすくできるかなどのサービスのコンセプトや方針に関わる部分から、実際に機能を実装してリリースし、メンテナンスするところの進行まで担当しています。

■ その中で大事にしていることはなんですか？

現場を感じ続ける、ということです。
サービスをどのように使っていただいているか、利用されている先生方がどのような思いなのか、どんなところを良いと感じていただいていて、どんなところに不満をお持ちか、どのような場所や雰囲気の中でサービスを利用していただいているかなど、実際にその場で自分の目で見て実感させていただくことを大事にしています。そうすることでより先生方の思いに沿ったサービスを提供できると思っています。できる限り多くの園・施設に訪問し、実感させていただきたいです。

■ 先生方へのメッセージ

いつもルクミーをご利用いただき、本当にありがとうございます。
ルクミーによって先生方の業務の負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間をもっと作るべく、日々業務に励んでおります。ご意見やご要望がありましたら、どんな些細なことでも構いませんのでお聞かせください。もしご訪問の機会をいただけるようでしたら、ぜひお願いできればと思います。

© Unifa inc.